

令和6年度 第1回子ども・子育て会議 議事要旨

| | | |
|----------|---|---|
| 会議体の名称 | 令和6年度第1回昭島市子ども・子育て会議 | |
| 事務局（担当課） | 子ども家庭部 子ども未来課 | |
| 開催日時 | 令和6年7月5日（金） 18:30～20:10 | |
| 開催場所 | 昭島市役所3階 庁議室 | |
| 議題 | 1 開会 2 挨拶 3 議題 （1）「子ども・子育て支援事業計画」に掲載された事業の令和5年度進捗状況及び継承について（資料1-1～1-4） （2） 教育・保育施設の進捗状況及び待機児童数の推移について（資料2-1～2-2） （3） 提供区域の設定について（資料3） （4） 昭島市の人口の実績と推計について（資料4） （5） 量の見込み算出と数値（暫定）について（資料5-1～5-3） 4 その他 子どもの意見聴取（案）について（資料6） 5 閉会 | |
| 出席者 | 委員 | 出席：9名 欠席：3名 |
| | 事務局 | 子ども家庭部長、子ども育成支援課長、子ども未来課長、保育所幼稚園係長、地域支援係長、子どもの居場所係長、指導管理係長、指導管理係長、指導管理係主任、子ども政策係長 |

1. 開 会

2. 挨拶

3. 議 題

（1）「子ども・子育て支援事業計画」に掲載された事業の令和5年度進捗状況及び継承について

●事務局により、資料1-1及び1-3に基づき「子ども・子育て支援事業計画」に掲載された事業のうち教育・保育施設の令和5年度進捗状況及び第3期計画に向けた事業継承の状況について説明

【会 長】

まず計画の基本方針、それから基本目標を踏まえた具体的な計画について、ここまでの状況、次年度以降の第3期計画の方向性についてご説明いただいた。一旦ここで質疑等を伺い、その後にもまた地域子ども子育て支援事業の進捗状況及び継承についてご意見いただきたいと思う。まずは、教育・保育施設における現状の評価及び継承の方向性について質疑等があればお願いしたい。

意見がないようであれば、地域子ども子育て支援事業の令和5年度進捗状況について説明をお願いしたい。

●事務局により、資料1-2に基づき「子ども・子育て支援事業計画」に掲載された事業のうち地域子ども・子育て支援事業の令和5年度進捗状況について説明

【会 長】

地域子ども子育て支援事業の状況について、質疑があればお願いしたい。また、先ほどの基本方針や事業の状況についても質疑があればお願いしたい。

【委 員】

資料の中にある一時預かりや休日保育には、企業主導型が含まれるのか。企業主導型も全体の数に大きく影響する可能性があるため、含まれていないようであればご検討いただきたい。

【事 務 局】

企業主導型はここに入っていないため、含めるかどうか検討させていただく。

●事務局により、資料1-4に基づき地域子ども子育て支援事業の第3期計画に向けた事業継承の状況について説明

(2) 教育・保育施設の進捗状況及び待機児童数の推移について

●事務局により、資料2-1及び2-2に基づき教育・保育施設の進捗状況及び待機児童数の推移について説明

【会 長】

事務局からの説明を受け質疑等があればお願いしたい。

【委 員】

資料2-2で、令和6年度の1歳児の待機児童が13人いるが、今年から昭島駅北口にマンションが建設され入居が開始される。これにより、若い世代がたくさん入ると思う。保育所の入所について、1歳児だと入所が厳しい状況にあると聞いているが、今年から、もしくは来年度から1歳児の枠を増やす検討はされているのか。

【事務局】

昭島駅北口に建設を予定されているマンションにより若い世代が入居されることは市としても想定している。令和7年4月からの開設となるが、マンションの1階部分にスターチャイルド昭島ナーサリーという保育園が新しく開設される予定であり、1歳児については10人の定員を予定している。また、その他の対策として、保育園長会等において待機児童対策の協力依頼をしているところであり、今ある資源を活用しながら待機児童の解消に向けた施策を進めている。

【会長】

1歳児は保育園への入所が難しい状況にあるが、逆に0歳児が定員に達していない状況もあることから、それを転用するといったような対応も検討していると市から聞いている。他に質疑等があればお願いしたい。

【委員】

1歳児で13人の待機児童が発生している理由がわかれば教えていただきたい。1歳児で多くの待機児童が出たのは、世帯流入等が理由なのか。今後、2歳児も大変な状況になる可能性も出てくるのが想定される。情報があれば教えていただきたい。

【事務局】

育休制度が変わってきたことが一つの要因であると考えている。今は育休を積極的に取るスタイルが変わってきており、保育の申請についても1歳、1歳6か月、2歳ギリギリまで育休を取り、子育てしていきたいお父さんお母さんが一緒に育休を取っていくような生活スタイルが変わってきている。そのため、育休から復職するタイミングである1歳や1歳6か月のタイミングでの利用の申し込みが多くなったのではと考えている。

また、1歳児のみでなく2歳児の収容率も100%を超えている状況が続いている。1歳児の児童が多く入園すると、そのままの人数が2歳児のクラスに上がるため、2歳の受け皿がなくなってしまうという状況となっている。

【委員】

1歳児の入所が多い理由が、家族と一緒にいる期間が長くなっているためだということが理解できた。

(3) 提供区域の設定について

- 事務局により、資料3に基づき提供区域の設定について説明

【会長】

事務局からの説明を受け、質疑等があればお願いしたい。

【委員】

本資料までの話を踏まえ、質問したい。まず、先ほど待機児童が全部で16人いるとのこ

とだが、一つ前の資料では、0～2歳児の実定員は1,347名、入所児童数は1,245名となっていることから、100人程度定員に空きがあると思われる。この待機児童16人という人たちはどのような理由で待機児童となっているのか。

【事務局】

0歳児の入所児童数は年々減ってきており、現在では収容率は約70%程度である。そのため、0歳児に空き状況はあるものの、1、2歳児が収容率100%を超えてしまい、空きがない状況となっている。

【委員】

0歳児で定員の空きがあった分が、この100人になっているということで理解した。

【会長】

他の自治体でも0歳児に多くの空きがあり、経営が苦しいといった話も聞いている。そのため、0歳児の枠をなくし、児童発達支援事業を実施するなど、経営面で工夫をしているという話も聞いている。そのような状況が反映されているように感じられる。

それでは、続いて昭島市の人口の実績と推計及び量の見込み算出と数値（暫定）について、事務局より説明をお願いしたい。

(4) 昭島市の人口の実績と推計について

(5) 量の見込み算出と数値（暫定）について

●事務局により、資料4に基づき昭島市の人口の実績と推計について、資料5-1から5-3に基づき、量の見込み算出と数値（暫定）について説明

【会長】

説明いただいた数値を見ると、令和7～9年のところが少し大変なところかと思う。また、それを踏まえながらも、令和10年、令和11年以降の現状のところも考えなくてはならないという難しいところかと思う。質疑等があればお願いしたい。

【委員】

未就学児については、保育の項目で集計されているが、昭島駅北口のマンションの入居に伴い、転入してくる小学生も増えると考えているが、資料を見ると人数が減る見込みである。人数が減る理由について、教えていただきたい。

【事務局】

新しいマンションができる時の入居される児童の年齢層については、市としても詳細はわからない状況にある。しかしながら、他のマンション建設後の傾向を見ると、小学校に上がる前の年齢層が多くなるようである。小学校に入った後に転入、引越しとなると学区が大きくなることから、小学校に上がる前に転居するという傾向が強くなるように感じている。昭島駅北口マンションにおいても保育園への入園希望の方が多くなる傾向

向にあると想定していることから、小学生の入居はマンションの規模に対して、それほど多くないものと見込んでいる。

【委員】

マンションの入居が始まってすぐには学童クラブの待機児童が大きく増えるということはないが、今後は学童クラブの待機児童問題等も発生するかと思うので、そちらも心配ではある。

【事務局】

市としても、学童の待機児童が今後増加するのではないかという心配をしているところではある。今後の人口動態等を注視しながら、学童クラブの待機児童についても継続して検討していかなければいけない。

【会長】

人口推計を踏まえながら、今意見で出たような学童の待機児童への対応や、1歳児のところの待機児童の対応も引き続き対応いただくとともに、緊急的な対応等もお願いしたい。

4 その他

子どもの意見聴取（案）について

●事務局により、資料6に基づき子どもの意見聴取（案）について説明

【会長】

子どもアドボカシーについて、子どもの声を聴く、というところがあり、大変重要になってきている。そのための大事な取り組みとなっているため、皆様からご意見をいただきたい。

【委員】

具体的にはどんな方法で実施されることを予定しているのか。また、質問事項を施設側や親御さんに事前に知らせる等考えているのか。

【事務局】

まだ具体的な方法は検討している段階ではあるが、聴取の内容については、他市等で実施している同様の調査も参考にしながら検討していきたいと考えている。聴取の方法については各施設にも伺う予定で考えているため、協力をお願いしたい。また、実施方法については、現場に行き、職員がその場で声をかけ聴取を行おうかと考えている。

【会長】

東京都のホームページでも意見聴取の仕方としてワークショップ形式や個別に話を聴く等の方法が公開されている。また、ニーズ調査でもアンケート実施の必要性について公開されている。それらも踏まえて実施していく必要がある。他に質疑等はいかがか。

【委員】

訪問する時期が7月中旬から8月中旬ということで夏休み期間であるが、今考えている訪問場所では日程のことも考えると1号認定児や学童等の保育を必要としていない小学生の意見はほぼ反映されないため、全体値が取れないのではないかと感じる。

【事務局】

日程的なところは今後最終調整していく予定ではあるが、今委員からいただいた話を参考にしながら実施したいと思う。

【委員】

訪問場所についての質問となるが、市の西エリアの幼保連携型となるとある程度場所が限られてくるが、働く人、保護者が多い中での聞き取りとなると、一番お迎えの多い時間である5時から6時ぐらいの夕方の時間に意見聴取を行うということでもいいのか。

【事務局】

具体的な時間も検討中である。委員よりいただいた意見を参考にしながら検討したいと思う。場合によっては相談させていただくこともあるかと思うが、その際はよろしく願いしたい。

【委員】

子どもの年齢によっては親子での実施となると思う。年齢層によって意見聴取の仕方を変えて実施となるのか。意見聴取の仕組みと中身をしっかりと検討して実施する必要がある。

【事務局】

保護者にはニーズ調査にて意見をいただいているため、今回は子どもの声を聴きながらのニーズ調査となるので、意見聴取の仕組みと中身をしっかりと考えて実施したい。また、ニーズ調査との整合性等も見ていきたいと考えている。

【委員】

小学生にしても幼稚園児等の未就学児にしてもそうだが、子どもたちに直接語りかけるとなると、ヒアリングをする人間の経験とテクニックが必要となる。教諭資格や教諭経験等の経験がある人がやらないとグダグダになってしまう可能性もあるため、十分ご注意いただきたい。

【事務局】

逆にこの場を借りしてお聞きするが、例えば、4歳児が教諭の先生に協力してもらいながら、ディスカッション形式みたいな方法で話し合いを組むことができるのか。子どもの声を直接聴くにあたり、通常の保育や教育の場面の中で自然に会話をしながら聞き取り調査ができるのが望ましいため、各施設での協力はいただけるのか。

【委員】

どこの施設でもできるかはわからないが、可能な施設も多々あると思う。施設と調整し、協力しながらの実施は可能かと思う。

【会長】

東京都のアンケートでも学習環境について現状はどうか、普段どこで勉強しているのか、学校以外でも勉強するのか、あるいは今勉強している場所で勉強できているのか等、困っていることがあれば教えてほしい、といった質問もあり、そこからどんなサポートが必要なのか問題点が出てくる。意見聴取の実施にあたり、園の先生方のご協力を得ながら実施し、課題点等の抽出ができればと思う。その他いかがか。

【委員】

対象施設には放課後等デイサービスや児童発達支援等は入らないのか。障害児が過ごしている場所への訪問も必要だと思う。

【事務局】

今は市内の幼稚園、保育所、認定こども園等を検討させていただいている。

【委員】

放課後等デイサービスに通っている子の中でも、しっかり喋れる子が多いので、そういった子どもたちと保護者からの意見を聴ける場所があるといいと思う。学校では自分を出せないが、放課後等デイサービスに来た時に自分を出せる子が多くいるため、そういう場での意見聴取もご検討いただきたい。

【会長】

多様な場所、多様な子どもたちの声を聴くことも大切なところである。その他に質疑等があればお願いしたい。

【副会長】

事業の実施状況のところ、要保護児童等への対応も検討しているのか。社会的擁護・養育の中で里親養育を優先していこうという流れがあるかと思う。里親養育、里親のもとで過ごしている子どもたちはまた思いが色々あるかと思うので、そういった子どもたちから聴き取ることも必要なのではないかと思う。

【事務局】

現時点では市内の幼稚園、保育所、認定こども園を中心に実施することで検討していた。委員の皆様からいただいた意見を参考に、実施方法等も含めて改めて検討させていただきたい。

【会 長】

アドボカシーというところでは社会的養護のところの子どもたちについても可能であれば聴き取りを行うことが必要である。母子生活支援施設も市内にあるため、協力をお願いするのも必要ではないかと思う。その他で質疑等があればお願いしたい。

【委 員】

訪問する場所は決まっているのか。

【事 務 局】

現在検討している場所については、市内の五つのエリアで実施することで検討している。

【委 員】

登校を固辞して学校に行きたくない状況の子どもにアプローチしていくことも検討いただきたい。深刻な悩みを抱えている子どももいるかもしれないので、そういった意見も政策に反映していただくことも検討いただきたい。

【会 長】

議事が全て終了したが、その他、事務局から報告はあるか。

【事 務 局】

今後の子ども・子育て会議のスケジュールについて説明させていただきたい。まず、次回の子ども・子育て会議については、10月に開催を予定している。内容は第3期の計画の骨子案についてご説明をさせていただく予定である。また、その後の予定となるが、第3回目を11月に開催を予定しており、第3期の素案の部分について説明させていただき、12月から来年1月にかけて、パブリックコメントを実施する予定となっている。その後、パブリックコメントを踏まえた後に、令和7年2月に第4回の子ども・子育て会議を実施し、パブリックコメントの結果、また第3期の計画の最終確認を予定している。

【会 長】

今後のスケジュールについて、説明いただいた。今後ともよろしくお願いしたい。最後に全体を通して何かご意見等があればお願いしたい。

【委 員】

障害のあるお子さんの送迎について、資料を拝見すると実績が計画より多いが、理由を教えていただきたい。

【会 長】

障害のお子さんの送迎について、児童数の増加のところは計画としては100人に対し、実績が500人ぐらいいまで近づいてきているが、何か要因等があるのか。

【事務局】

学区外への登校支援ということで、利用者が増えてきていることが要因として挙げられる。送迎が必要でも仕事で保護者ができないためファミリー・サポート・センターを利用しているが、毎日のことなので全てをファミリー・サポート・センターで補えるわけではなく、他の支援方法を検討してもらえないかという声が増えてきたことがここ数年の流れになっている。また、ファミリー・サポート・センターの協力会員の方も高齢化が進んでおり、現状としてもなかなか調整が難しい状況となってきている。

6. 閉 会

【副会長】

この計画の中に子どもたちの意見を反映させていく上で、大切な意見聴取の場になると思う。ぜひ子どもたちの心の言葉を拾っていただき、次回の報告を楽しみにしたいと思う。今後ともよろしく願いしたい。

以上